



匠材集

四

伊地知文庫
文庫20
210
4



文庫20
210
4

匠杖集第四

伊地知氏書冊

さ

さうれきりくむまをわ
らき事なりきりかよ
人しかりけれも同お

さゆみん
まこしにいあんてま
まきなり

さ記さうゆう捨置とゆふ

山くゆめ雪こゆふう雪こ

さゆりゆきりゆかも

さくゆん
かこまなり

さくしつま
まかおのり
まふ

匠杖

ふかざり月 五月の事

ふれも月 三月の事

ふくも月 九月の事

ふくも月 八月の事

ふくも風 候音を吹らし

ふくもひこり 雷をいかり

ふくも色 衣取和天皇より初

ふくもさ 峯をいかり

ふくも鳥 うみとかり

ふくも人 あけてみよ

ふくも色 百音も

ふくも色 私活くスル

ふくも色 事同利根

ふくも色 不意に

ふくも色 事な

ふくも色 天子

ふくも色 事

ふくも色 事

ふくも色 事

ふくも色 事

さびしき海 せん死にせらるるの

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さびしき あつり

さし石 らさき石の細か石とす

さし水 さとかうの水と

さし波 さしにひかり

さし花 さしにひかり

さし月 さしにひかり

さえ流 さのまは帰る

さし草 初まふり前まも

さし茶 三枝の花折て酒研

さし人 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

さし心 さしたてかろ

元

さつれ さあれいこしつたえ

さつれが成發 ？いれうたさつれ

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さつれが成發 さつれが成發

さくら戸 さくらのまよへ 此戸

うれ うれい

星ひき 田舎うき

さくら人 風俗の人なり

さくら別 不吉別死つれ

さくら さくさをり

さくら 祖神

さくら 善の事

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

あや あやかし

さゆふ たゆふさの助子

さそいけいかわま カノキヨウ記

さいわりの舟 唐船たゆふ

さいさす たゆふありこころい
さいさすのまこと

さいさす 貝...のまこと云
さいさ江...のまこと云

さいさす かろい極麻のまこと云
さいさすのまこと云

さいか小娘 七夕あり

さいさす 仲母の内文の由事

さいさす さいさすのまこと云
さいさすのまこと云

さいさす さいさすのまこと云
さいさすのまこと云

さいさす わりのこらさけい

さいさす 合点あり

さいさす さいさすのまこと云

さいさす さいさすのまこと云

さいさす 酒のまこと

さいさす たがきまこと

さいさす 月の名

さいさす 田の海かり

さいさす ての海の名

さし一本 九百七十五本の体なり

さし一の板 捨取かり

又持の玉 誰とぬりし

さなとるを 誰とぬりし

さし一か 誰とぬりし

うにけし母 けさやまの人の事

あし海を 誰とぬりし

さし八打神 誰とぬりし

さしけか記 世倍しそらけり

又さしぬ祈り

さし一ひき 誰とぬりし

さし八か記 誰とぬりし

さし寺山 揚津國

さし一たよ 誰とぬりし

さしかす 誰とぬりし

さし一ふ 誰とぬりし

さし分あさ 誰とぬりし

誰とぬりし

さし一れ母 誰とぬりし

さし一りか 誰とぬりし

さかたれ舟 舟さす人の舟こ

さうかへん 盃さしかり

さくしゅり ちよん紀事と云うり

さく波の圃 池江の圃の色

さく竹 枕詞さく竹のたがさふよ
用

さめろの花 花さのころころり
こころかり

ささ井 真ん後教云田草しこ山田のさ
井とささきおかり

さ月の流 百練流と云と六月の宮
午時に南舟中さ井

さく草 草さるり

させとれ ころころりとの色

さくせん家 表のひのひの井たかり

さくさか 男とささし時流の流
りよかり

さくゆき 弓の器具の中おさる
さあかりのさかり

さよす人 神楽男と云とさよ
ねぬあんとかり

さくろく 小圃さるり

さち ささしひかり 幸の字さしはる

ま

まきさるり 表の流の流
たわくお月こ

まきさるり 四季のささしこ

まきさるり 黄泉真途こ

本町の馬

三ノ丸の門 秋の夜かり

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記 二月の夜

三ノ丸の記

らんちり 海うかり

きすくおて こくれし

このれん中 芳の家申し

きののかり 赤いふと云

ふぬくりり 正月の夜と書し

きやとれ 衣記

きのふれ落 ふしと云

きれみら ふらつけと云

きのみら 昔通し

らんれ水 九月九日の酒のり

うくれ ちんちん

きらやう 本下二書し

くそわり 梅かり本毎かり

きさ紀 後書月と云

蚕 糸はくし

きのの いかり

きの 日投と云

きの 井

きの あれも

き

さくらが 不敗の事あり

さくら 風の名あり

本此ま家 辰の名あり 天智

三流立本丸

まじりた 物に時女

まじりたる水 水と清らあり

まじりたる 水と清らあり

まじりたる 魚を字にあり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

ま

まじりたる 名あり

まじりたる 名あり

ま

登りげのみと夜しそよよの
大いなるわらわ

ゆめはく麻つげのまき

登りけふ 弓矢絵あり

ゆめすこ人 針糸うたひの夜あり

登りけふ 針あはる枕あり

ゆめけりて 夕よふあまき

登りけふ けさうしあしうひの助
字かむと行しうと云

ゆめけりて しまくしん思字
ふたれまおもひ

登りけふ 由まかり

ゆめはくちり 弓矢絵あり

ゆめはくちり ゆめはくちり
ゆめはくちり

ゆめはくちり 一のまき十一面と
すかむと又うけり

ゆめはくちり 一のまきの上よりゆめ
のまかりの針糸の針糸の上よりゆめ

登りけふ 一のまき十一面と
かむと又うけり

ゆめはくちり 一のまき十一面と
かむと又うけり

登りけふ 一のまき十一面と
かむと又うけり

ゆめはくちり 一のまき十一面と
かむと又うけり

登りけふ 一のまき十一面と
かむと又うけり

ゆめはくちり 一のまき十一面と
かむと又うけり

ゆめはくちり 一のまき十一面と
かむと又うけり

登るか 去雨か 去るか 去るか

ゆきか 行とか 行とか 行とか

登るか ひらか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

ゆきか ゆきか ゆきか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

ゆきか ゆきか ゆきか

登るか ひらか ひらか

登るか

ゆきか

世くころ なるいりのこと

夕火の 川にまき

雪れしく人 琴のまゝかき

ゆきもくも 古と同まき

雪のまき 外の花をかき

ゆきもくも 冬は四のうんくたを
とりのり 秋のうんくた

ゆきもくも ついでに

雪のまき 田舎舎に有れまき

ゆきもくも 雪をかき

夕火のまき 雪をかき

ゆきもくも 雪をかき

雪のまき 昭和太子様定之御和別法隆寺

雪のまき 落毛とれはひも

雪のまき 雪をかき

ゆきもくも 雪をかき

雪のまき 雪をかき

雪のまき 雪をかき

ゆきもくも 雪をかき

ゆきもくも 雪をかき

め

めさうー 其のつらさのたゞ又 雲の流る
入内舞のこ

めんさつや 後の又し 彼ささく
うらなひのこ

めさくめん びらんのひらひら
かたこ

めんくさひ うれはかた

めなまに 文彦梅の

めさたふれ 思ひまかた

めんたまき 思かれらふし

めさゆーまき 思ひまかた
かた

目とそとさめ そはかた

めはるか 思ひまかた

めはるか 思ひまかた
思ひまかた

めんさつーひ 思ひまかた
思ひまかた

めさうー 思ひまかた

めんさつー 月夜あつたこ
思ひまかた

めら 思ひまかた

めんさつー 思ひまかた
思ひまかた

めさうー 思ひまかた
思ひまかた

め親たらん 思ひまかた
思ひまかた

めんさつー 思ひまかた
思ひまかた

めさつー 思ひまかた
思ひまかた

めんくろのろ 殿うろくさうそ
浮く感信く云

めくろりー 足合の海

めそか紙ー かめろり紙し又めそ
くさもかろーたろ

めんーうせ 思人のましとん

ろーさん家 日美人と云

めんそめ かいのましと目録

めり かけのうろく

めん源の鳥 くのささろろろり

目ふらんぬろ 牧のまし毛小葉と云
さちかり

めなま たらやろま

めんは男 業平か

めもまりして かけんまろのろ
か

めんか紙 あろゆのま

めかーふ 思かろろろ

めんられま 村西せぬ

み

みやひ 橋とろのん事し嫁字

みやこ鳥 うとめかわ

みやー 思ぬく上夜し書

めんはくろ 思ぬく官字と事
かわ

見じ海 とこかの海西の海

男 とくは雨を夜に用ゐる

み これにえ垣蓋をく紐より

み その水衣なり

見 か月 六月か

み ひくき 毛とりふし又名電

湊 志くむ わらうこの海の白きを

み かせ鳥 鼻とりふ水殿も

見 くめ鳥 しくひせし

み さく先 黄瓶

見 と死 しくこの事

み もは 林のまあり

見 えに酔 酒よあひてこ酔

又 見きともりのみさ給たより

み 川は 真の水出とく

見 れいさ 鳥みこいも

み はさす ころも 舞ふこ三月

見 こひき草 葉かり

み とさ草 葉かり

み しと草 葉

みくら〜あきつとゆき

みさくららみこれ

見はらぬひうみかたかむら

見くららあひけしうら

みづらき人文の直衣と志

みづの口おのふわさ

見くらし川林山

みづののりあふ年の

みとすそ川伊勢の

見流のひあふ

見くらやもあふ

みとあふ

見のき物あふ

みとせ川三途川

見とかけあふ

みとあふ

見かたあふ

みとひ川あふ

見かたあふ

みかたあふ

五文

見物く又 田灯又と書とり
火より書又十のま

見とむしれ神 六位のしやうとく

みさか さあなむとせらとりか

見さかめく あれも物のなん
せとれし神と

みけま か記の言水神と
うめり老嫗の飛

みら あれとよ

見ら 月の事月れとつ
とくか

みとれ 婦夫和合の
神代より

み 浮橋の事と

み 口又やふらりあひ

見 三橋田橋の事
はつしの夜化

み ぬと人の事

見 荷となふ事や

見 商人かといつを
いやさんといふ

見 たの事

見 たの事

見 三徑門井厨の事

見 カといふこと

見 水菜か

み 装束潤すこと

三はまのり 三振田んぼ

見ゆらりの面 祝なり

こえ重れ袴 中信あかりん

みらやう 水柱のこひろやう

見かひけ 巾のちからぬけこを

みもまうして 結をこ

三河の女 琴酒酒の女を

見おろし 十にみらり

見足海り 水は洗

みそらあ 海ひそら

見ゆらり 女が就まの

みらり 見ゆらり

見て 見ゆらり

みそ 明石中

見 見ゆらり

みや 見ゆらり

見ら 見ゆらり

水 見ゆらり

み 見ゆらり

見 見ゆらり

みやうらうら 文うらのたがきうら

見ふれよ うらやの夜に又七夜

みめ縄 水は連とま

見のこころ あやまらとこ

みゆき 水生とく 大の神 水は連日かり申の目

見う記う原 名和うわく 仙洞下の水垣

見り 水上のあしかり

みれ志海衣 見のと夜に云い 衣代衣又もよかり

見かけ水のり とれ代をもよかり

見こころ 水の勢うと云

みくれ 水うらうら 水は連

水れ 水のまき

みあ みあかり

見なれ 水うらうら 水は連

初のてふ 初のあつ

三輪れ こあし

みあ 天子崩沛の日と云

みちうい 見遠に云い 道のち

見ゆき色 西徳丈かり

三えんまこれ解 ぬ方の上三粒

包美この糸うそわのいと法いりて

宮柱わくむと合 伊那道三廿
一年りの水

見わふ家 見わふせこ

三川のかりし 天神まよてう

てううかあまう三角柏こしを丸

もと水まうけして石こま川のい画字い

し水のうしんた又水なうしんと

見はくかりし 右同おこ立の時ふ

見はくかりし 左さくれいさうす

見はくかりし 左さくれいさうす

三れつりさ 三徳こ

三乃道ふく家 三途かを

みぬ 戸多くと封付るし

見くれう記 琴と行ふとつを

みこりらとれ神 みの中おある

見川水 大内うらうとかなと川

道乃かあう 乃祖神こ

みとらとれ洞 玉の四丁りや霞

水乃記 ともとの事こ

みさこ草 桃のまをん

見せりれ記 梅の事し

水の衣 水の事し水のさぬたふ

みささき これ夫名

見ら草 日お三千粒

みそり 暗日二亦日

見さて記 玉のれえふ

みぬ 水さいきうとさかり

見せりの露 三人のおきれ玉ゆ

見かせ川 天川に水産川
中よさこ水少

たごえさ 小枝かり

道志れお約 むら

見り うれふ

見と記 玉林な板心祈
玉かり

みをき 帝主よ神物とて

見かたれさか 水は別

みり 久しきんむらこの

よはまの字とみりうさ
なうらんの字よま

道行あり るいん

水かけ草 いれと

みさ い

道りしと草 卯花かり

みやしと海 柿田こし代

見くは山 一ノ燈かり

みうか山 いたら鏡山と
よかり

見くさ糸 さくさより

みくさ糸 三枝の糸と
酒橋とく

見けり 柿供かり
柿食

みい乃ち里 壺さき
里とせ

見ぬよれ山 きの山かり

見しあのを 田の
なで

みなりと草 柿さき

柿の極後 河原院

みやこ草 松かり

みやじまや 柿さき
水

三れすれ 伏犧柿
農皇

みあせのり 天子の
水

見こゆら 柿も
柿

水乃しと海 水と
改

水乃しと海 水と
改

水のもくえん 日水縮こ

三れりしめ 元日かり

みまれのあひ 実家の糸はたの家のこころ

三草れたたり 三粒の神宝

見このま 長文の事

みる起りや 海門の事

見くのま 藻と焼

三 かさよめ

耳堅く 耳のどく

三 久家

見やこ 夜上人の事

と流の力 圓の名に筋字と長

三流の灯 日月星と又三輪

見 芥山と三のま

見 やまきのま

三 玉地

道口のな 越おの名

助と 左と中

み か

み 指

見をり 田の水と身とをり

みそ乳 糸折を他来し也 糸折

し

あひく 其の教束の上よりあひく

あやう かんちん

あけら やふまににまわしきん

あこ免 あこ免

あはれれ あはれれ

あゆく あゆく

あゆい あゆい

あゆい あゆい

あし鳴鳥 あし鳴鳥

あしり あしり

あしり あしり

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

あし あし

志波り子家 いさなり

しかり 乃のしかり

志井菜の山 紅葉せぬ山

志いのこやて 志の山お枝

志井菜の神 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

志いのあさし 志の山お枝

あり舟 スルハシ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あり舟 舟のやうなこ

あり波 舟のやうなこ

あうし縁さ 思深んこ

あう引さひり せん引りり也

あうんあうひん 後のひきまの葉 敷くあしむら

あうん又光者の一なりてふ是の ありしよし

あうんぬ海 湖海あり

しんねん せんらん園

あうんぬ 水海の無名又あてりる月 曇山よりうりんうりる

あうんぬ たる蒙のふり

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ 舌のよやん草人

あうんぬ しがあひたる

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

あうんぬ せんらん園

志のたまる 光のたまる

志のり草 秋のまき 麻のり草

しきぬさ ぬきのまき ぬきのまき

志のり草 二色草

志のり草 恒く恒と云ふ

霜の清く かり

志のり草 かり

志のり草 そのまき

しめぬ 小蛇

志のり草 西の名

志のり草 麻の名

志のり草 秋中

しぬの麻地

志のり草 志のり草

志のり草 志のり草

志のり草 秋の中

志のり草 新羅人

志のり草 志のり草

志のり草 志のり草

志のり草 志のり草

志の山 枯立神の白蛇

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志の山 志の山 志の山 志の山 志の山

志乃小吹風 志乃吹風 志乃吹風の心は

志乃ゆい 志乃ゆい 志乃ゆいの枕詞は不知火

志乃ちれ錦 志乃ちれ錦 志乃ちれ錦の心は

志乃 志乃 志乃の心は

志乃のん文 志乃のん文 志乃のん文の心は

志乃ゆい 志乃ゆい 志乃ゆいの心は

志乃くく浪雨 志乃くく浪雨 志乃くく浪雨の心は

志乃れ 志乃れ 志乃れの心は

志乃摺衣 志乃摺衣 志乃摺衣の心は

志乃て 志乃て 志乃ての心は

志乃れ 志乃れ 志乃れの心は

志乃 志乃 志乃の心は

志乃田 志乃田 志乃田の心は

志乃 志乃 志乃の心は

志乃 志乃 志乃の心は

志乃

志乃 志乃 志乃の心は

志乃 志乃 志乃の心は

志乃 志乃 志乃の心は

忍ふれあかせり

忍ふまき 縹冠

忍ひろく 忍ひろく

忍 火焼の名かり

忍びろく 忍びろく

忍ろく 忍ろく

ひ

ひーさき 海の名

ひさゆき 一向ぶくま

ひらまさ 舟りれま

ひやれ 網 池國のみ唐國

ひこが 男セタかり

ひゆき 舟りた松のま

ひた 舟りたかり

ひと 舟りた 舟りた

ひかや 舟りた 舟りた

ひた 舟りた 舟りた

ひま 舟りた 舟りた

ひと 舟りた 舟りた

人 舟りた 舟りた

ひとれ門 唐の門

ひやだまひ 土車の名
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車
ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひやだまひ 土車

ひさゆん 大面をよりりひさめより
いづらちまもくも

ひちち雨日おこ

ひあやし いづらち

ひあこ 蛭児と書札の名かり

ひめて ひすうくめい朝宗こ

ひーやまの世 賢王の代こ

ひそび まゆのちとまむす

ひかたれが 田舎のふこ南海より
もろ子いふたなく

沖流まきくおそくちあちやふと云
ひとるまて けりこ松彼子と云

ひれくまひ 袋木の赤まこ

ひくおりて おりてつとてかこ

ひ祿すま 大崩唐上り置
の大山上登和火を

火の中の嵐三尺かひはもよそ布
と織られを袋布と云

ひこまけりいれけり

人こくあふりこらてこつとるこ

ひといたち 馬の名こいづらち
まこ

ひ海まろり 馬のまこ尺八と云
まこた馬まこ

ひまこや ちりひまこ

ひとれ國のあ 変魂者こ地國
まこ云こ

ひやう人介とて

ひくらくまを甲 あつ、散るら
かむ、又ひくらさ
ゆひひらこくしものふかむ、又ひくら
くひ衣折れあくらす、よふかり
ひやそり 一跡、身一族の衣

人正記 新別とて

ひやを わられあを水浴、す

ひ海の中 中のわ、とて

引らん 既習、切者

ひやの あか油と水、よふ

ひや 久の紙、ひら

ひも れ精、虎の毛、油、茶、湯

ひ祿 りも、一日あす、後日とて

人た のめ、またのめ、とて

ひ おど、の日、五月五日、左邊を
うらと、引折、あかり

ひ おり、あら、ひら、とて

ひ く、す、ひ、へ、り、か、わ

ひ つ、海、火の色、者、とて

ひ つ、れ、あ、屠、の、羊、の、とて

ひ よ、り、ら、て、正月、一日、ら、水
物、あ、り

ひ や、り、か、ん、ひ、とて

人海りかゝぬ 我れかゝるこ

人言ふのうらみ

ひこもへ 本伐江一校生をま

ひこけらふ ひこけらふ 又ひ

そよぶこ

ひく吹 風 ひつさ 風

目乃たけ 元日水と世とそ

ひ海り 二海 光陰のふ

ひつらか 目乃わとの二番

ひまき 被つ

ひす人の宿 四月百

ひと海 宗廟

ひりれ水 水

ひのく 伊勢

ひさ物 あ

ひさ あ

目れ あ

ひら あ

近江口

三十八

日れ之内か 祚殿よりひく地

ひまれば馬 いろかたし

久ういの山 須弥山なり

二秋うくのしれ祚 さすん祚之大白 祚は天の事

火とくらたたる世 佛入滅の事

ひさら若一 麻沸祚一と云と折 てもひらひらり

ひより糸 氷のぬい面年とて竹 是ハ氷のゆりて大 法書ま

ひかりのこせ うらとがうらとせ ぶこ又日けり糸こ

まは日けりこよ莫とくさPそらんさ しまくを

ひやか祚 業がと一抱のふと

ひまての暦 ましまれふと

庭乃車 車れか一ひまのまを しかり

ひやへ草 まやうかや

廣葉れろ うらしかり

ひ海すく次 みくれまを

ひやよ酒 六月二秋よ酒と遠 帝へちすりかむ

ひ系れか 昔捨かかして 年をの事

ひかりの法 まは登の事うけいれ かわと克法かむ

ひくえ乃祚 天照太祚のゆりかり

まはち

ひらりる名れ車 ひんらりの名

ひえんじ ひえんじの地

一日れ宿 はせ界

人あり日 三月七日かり

ひらりる名れ車 ひらりる名れ車

ひきまも ひこの事

ひわりれも向 むかし

ひろふ ひろふの事

ひかりの光 國海の内中

ひやむ ひやむの事

ひまの暦 ひまの暦

底乃車 車れおひまの事

ひやへ草 ひやへ草

廣葉れろ ひろはかり

ひろす ひろすの事

ひやよ酒 六月二日酒と造

ひよれか ひよれかの事

ひかり乃 ひかり乃の事

ひえん乃 ひえん乃の事

ひららるる此車 ひんらるるの車
ひんらるる此車 ひんらるるの車
ひんらるる此車 ひんらるるの車

一日れ宿 は世界へ

人あり日 三月七日あり

ひんらるる此車 ひんらるるの車
ひんらるる此車 ひんらるるの車
ひんらるる此車 ひんらるるの車

ひきまき ふこの事

ひわらりれり向 七夕は日向あり

ひんらるる此車 ひんらるるの車

ひんらるる此車 ひんらるるの車

ひんらるる此車 ひんらるるの車

ひいなる 植ものなり

も

物あり 食相あり

と流 よき事

とれいん 後見あり

鴉れとや 鳥あり

とすの 鳥あり

物 祖文あり

とかくく りふみもかくし

とく あつた

とく く あつた あつた あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

いふやうやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

いふやうに言ふは聞か
しうさか 家の敷の百石

色のたまき 唐の天白山より流し

もやせいの びんざんは漆地云々
女とも云

色やうき 草子とのすき
あさてかよぬ

色白玉 漏割の水の音

りと立道 戎家のつこ

色よに やとめ字に流り月と
よ記もよせし同お

色あか枕 深より遠きより
まくら

色こよ いさむり事

色いふ あさもよしわき飯
かとはり

色海 藍の事

色か 真丸の事

百 千の事

色鳥 枝のたひの事
鳥の首

色十 むし

色か わの事

色い 草の事

色 白の事

色 赤の事

紅葉 錦の事

色 白の事

せ

せれまがら

せはら 下がとこ

せうせ ちにとりて元才ゆも

せんろか 幸ありま

せし 海河落合の津戸迫門

せら丹もわぬ 大切なるぬこ

せんす人なる せんこそが死

せんさせし 甚の事

せんれ解 せんらう

蟬のとりん 蟬蔵

せらふ 月の美分

せりてさ せりてさうのあり

せりてさ 客と送送 せりてさ

せりてさ 天のあや

せりてさ 坂の園

せりてさ せりてさ

せりてさ

せりてさ

せりてさ

世に縄 得し方へと引し麻と

第八物 らうきだ真と

世に縄 とゆへいし方へと引し

す

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

とく あつた

すまじき くらげのたまご

すまじき 便な

すまじき 智恵の如くかきす
とみまろる目あ

すまじき 浦人のりま

すまじき 水門の由事

すまじき まくら

すまじき 寺姥 下流几丁

すまじき 箱のまかり

すまじき 好色なま

すまじき えんのみま

すまじき 水琴のたまご

すまじき くらげのたまご
くらげのたまご

すまじき くらげのたまご

すまじき くらげのたまご

すまじき 焼く灰のたまご
肉のたまご

すまじき 山城の道中

すまじき 救急

すまじき くらげのたまご

すまじき くらげのたまご

すまじき くらげのたまご

まろしん道 植物のまろしん道
の折よあ、ま

まろあねの園 目付のまろ

まろひく まろひく、まろひく、まろひく

まろひ まろひ、まろひ、まろひ

まろひの鳥 燕の鳥、まろひ

まろみ 星神かり

まろみ 不毛かり

まろみ ろのろ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

まろみ まろみ、まろみ

正に村島 しむらぎ

正に しむらぎ

正に しむらぎ

正に しむらぎ

近杖集第四之終

此の波急なるて海の色も
かりれと海井せりけ長成人
此一冊と神あり其は帯是
をかきりてこれと惟人の

志と之をよ事と云ふ祿
とと和弁此浦とあり終と志
はうん人の切不切と云ふは
調りしと神とんはまふと
ふれは末代乃る室な人
子間波筆者也

慶長三年二月上旬

法服

法服

慶安四辛曆仲秋
寺町通圓福寺町
秋田屋平左衛門

